

◆特集 利用者のニーズに沿った支援を行う◆

事例報告(2)

患者図書室の設置

川野 眞 樹

I. はじめに

近年、病院では「患者図書室」「患者情報室」とした新たなサービスの場が病院に設置されてきている。京都第二赤十字病院でも2007年5月より病院図書室内の1コーナーに患者用図書を揃えて患者図書室としての新たなサービスを提供し始めた。患者図書室を設置して今年で一年が経ったことを機に当病院図書室の患者図書室の活動について報告する。

II. 設置経緯

当院で患者図書室を設置するに至った経緯は2002年9月から2006年10月にかけて行われた病院の改築が挙げられる。この改築で図書室が移動になり、室内面積が約50㎡から約100㎡と広がったことで新しいサービスを提供できるスペースができた。病院機能評価(Ver.4)を2006年2月に受審したことを機会として図書室機能の整備が始まっていた。このような状況の中、患者図書室としての機能もある病院図書室にしようとした計画が持ち上がり、設置されることが決まったようである。

III. 開設準備

2007年2月の図書委員会で患者図書室のサービスについて議題に上がり、患者図書室に向けての準備が始まった。配架する資料につ

いては図書委員会(メンバー:医師5人、看護師1人、薬剤師1人、事務3人、司書1人)で病院ならではの情報提供を行おうといった意見により、患者図書室のサービス内容を健康・医療情報の提供のみ、小説や趣味の本は配架しないことが決定した。当初、患者図書室用に資料費として100万円の子算が付いたので、提供する健康・医療情報としての購入資料の選定作業を行った。資料選定のために他病院の患者図書室で揃えている資料を参考にすると共に患者図書室の先駆けである京都南病院より資料選定のための意見を聞き、また患者側の意見が聴ける講演に参加し、膨大な医学資料から購入する資料を絞り込んで患者図書室資料選定リストの作成をした。作成したリストは図書委員会メンバー以外の先生にも配布し、資料のチェックとリストに載せた資料以外の推薦を募った。その後チェックされたリストを図書委員会で審議し、新規購入資料を決定した。

患者図書室用スペースとして室内の約2/5を患者用のスペースとした。患者向けの机や椅子が不足していたので椅子5脚、小さいテーブル2脚を新規に購入し、病院で余っていた1人がけソファ3脚を譲ってもらった。書架に関しては新たな購入はせず、既に壁に作りつけられているものをそのまま使用することにした。患者用、職員用とスペースを分けて資料を配架したが患者の利用は患者用スペースだけに限定せず職員用に配架している資料も自由に閲覧しても良い状態にした。

KAWANO Maki

京都第二赤十字病院 図書室

tosho@kyoto2.jrc.or.jp

患者図書室の利用内容についても図書委員会で決定した。資料は冊数が多くないこともあり、図書室に来室すれば必ず調べられる状態にするということにして貸出は不可、閲覧のみのサービスで始めることになった。利用時間帯は図書室担当者（司書）が必ず図書室に在室している時間帯である平日の午前10時～12時、午後2時～4時と決定した。パソコンの利用については台数が1台しかなく、インターネット検索は病院図書室でなくても利用できる、といった意見もありインターネットの利用サービスは行わないことになった。利用者は患者（外来患者・入院患者）及び患者家族とした。

IV. 利用状況

2007年5月7日より患者図書室を始めてから患者図書室の利用人数は平均して、1日2～3人である。この人数は実際に来室されても、室内を見学して医学関連の資料しかないと分かると直ぐに退室される人は含まず、図書室資料を利用した人数である。来室されたときに患者か患者家族であるかの確認はしていないので、どちらの利用が多いのかは分からないが、熱心な利用者は何度も来室され、時々患者用の資料だけでなく、より専門性の高い雑誌論文を求められることもある。中には朝、読まれた新聞を持ってこられ、新聞記事に書かれている薬について尋ねてこられた利用者がいた。このレファレンスに対しては一般的な健康・医学書だけでは対応できず、専門雑誌に載っている論文を紹介するなど公共図書館ではない病院図書室ならではの対応ができた。その一方で入院中の大学生が退院後に提出するレポートを作成するため、資料を探しに来室され、その資料収集に対応したこともあり、病院図書室でも病気について調べに来室されるだけではないと思った事例もあった。

患者図書室の利用目的は様々だが、利用者が病気について調べるとき、好む資料の傾向は目で見てわかりやすい資料やQ&Aで書かれた資料が多い。しかし、利用者の質問に対応すると専門的な資料を求められることもある。利用者の質問に対応する度に患者図書室に揃える資料は一般向けに書かれた健康・医学書だけでなく医療者向けの専門図書や雑誌も必要だと思える状況である。

V. 今後の課題

現在、患者図書室の広報は、当院の総合入口であるB棟1階と図書室のあるC棟1階入口に患者図書室用のリーフレットを置いていただけであり、それ以外の広報はしていない。図書室はC棟2階にあり、外来患者、入院患者ともに利用の多いフロアではない。今後、利用を増やしていくためにも入口付近にリーフレットを置くだけでなく、人目につきやすく、患者図書室をアピールできるような形の広報を考える必要がある。患者図書室用に準備した図書も約300冊と充分とは言い難い冊数である。医学資料は一度揃えれば終わりではなく、日々新しい医療情報としての図書は出版されている。新しい情報を提供していくためにも新規に図書を購入していく必要がある。利用時間も午前と午後のそれぞれ2時間だけでなく、利用者にとって利用しやすい時間帯への変更を考えていきたいと思う。

VI. おわりに

患者図書室のサービスを始めて今年で一年が経過したばかりである。利用状況を考えるとまだまだ改善する点はある。これからもよりよいサービスを提供していくために、日々の利用状況を把握し、レファレンス内容を検討することで今後の患者図書室活動に繋げていきたいと思う。